

[O-0947] 14:00～15:00

**血液透析患者における医用電子血圧計 AVE-1500(PASESA)の有用性**

座長：稲葉 光史 / (医) 三友会あけぼの病院

演者：佐々木 成幸 / せいてつ記念病院透析センター

共著者：倉本 光 1、矢浦 諒 1、神津 純一 1、佐々木 潤 1、高澤 由美子 1、加藤 哲夫 1、松浦 朋彦 2、兼平 貢 2、阿部 貴弥 2、小原 航 2 / 1 せいてつ記念病院透析センター、2 岩手医科大学附属病院泌尿器科

**【目的】** AVE-1500 (PASESA) を用いた透析患者の動脈硬化度測定値にバスキュラーアクセス (VA) が及ぼす影響について評価検討した。

**【対象及び方法】** 透析患者 103 名を対象に、PASESA を用いて全身の動脈硬化指標 (AVI) と末梢動脈硬化指標 (API) を測定した。また、VA の作製回数・作成部位の違いから 3 群 (A 群：VA 1 箇所、B 群：片上肢 VA 複数、C 群：両上肢 VA 複数) に分け測定値との関連性について検討した。

**【結果】** AVI (A 群  $31.6 \pm 10.9$ 、B 群  $29.8 \pm 10.4$ 、C 群  $34.2 \pm 11.6$ )、API (A 群  $32.1 \pm 8.7$ 、B 群  $32.7 \pm 7.2$ 、C 群  $33.2 \pm 7.7$ ) であり、各群間に統計学的な有意差は認めなかった。

**【考察】** 血圧測定と同様の手技で動脈硬化度を評価できる可能性があり、透析中の血行動態の評価などに応用できる可能性が考えられた。

**【結語】** PASESA を用いた透析患者の動脈硬化度測定値に及ぼす VA の影響は小さく、動脈硬化度評価手段として有用と考えられた。

2016/6/11 第 61 回日本透析医学会学術集会